

体験を通して、新聞とかかわり、主体的に受信・発信のできる子ども ～ 学級の中核的な活動と関係する新聞記事を利用して ～

長野県南安曇郡豊科町立豊科北小学校 三 澤 浩

1. 実践の概要

(1) テーマ設定の理由

今年は、小学校4学年の学級の中核的な活動（総合的な学習の時間）や各教科の時間に利用してきました。小学校4年生にとって、新聞記事を文字から理解することは難しいことであると考えられます。日常の生活の中で、子どもたちが新聞を読むという習慣はほとんどありませんでした。テレビ欄やスポーツ欄が精一杯というところでした。

小学校中学年の子どもたちにとって、どのように新聞記事を読ませるかということに視点を向けてみようと思いました。子どもたちの発達段階を考慮すると身近な新聞記事を与えることが大切であると考えたのです。できれば、身近な新聞記事の内容を体験しながら、理解を深めていくことが望ましい。そこで、学級の中核的な活動と関係する新聞記事を利用して、読みを深めていこうと考えました。相手の立場に立って記事を読ませることが、主体的な読みと表現力を高めると考えたのです。

そこで、「体験を通して、新聞とかかわり、主体的に受信・発信のできる子ども＜学級の中核的な活動と関係する新聞記事を利用して＞」を研究テーマに据えて実践していくことにしました。

実践学級では、6月にメリーサというペルーから編入してきた友だちがいました。また、8月には、ブラジルからアキラという友だちが編入してきました。子どもたちは、お互いに言葉が分からず、毎日の生活には、気持ちのすれ違いがたくさんありました。その都度、子どもたちは、真剣に言葉を調べ、身振り手振りで気持ちを伝えようとする姿がありました。そんな子どもたちの姿を見ていて、「外国から来た友だちと、気持ちを伝え合い、友だちの輪を広げていこう」という活動を学級の中核的な活動とし、人間的な成長を願うことにしました。そして、この子どもたちにとって必要感のある活動と、N I Eの活動を重ねようと考えました。

ある日、「外国籍児童の就学支援へ」の記事を見つけ、その記事を子どもたちに与えました。その記事に出会った子どもたちは、「かわいそうだ」という表面的なものでした。自分たちのクラスにいる外国籍の友だちのことは、子どもたちの視野にはありませんでした。この子どもたちの心がN I Eの活動を通してどのように変容していくか、主に次の活動を進めていくことにしました。

(2) 活動内容

- ①学級の中核的な活動（総合的な学習の時間）を立ち上げ，テーマを決める。
- ②学級の中核的な活動と関係づけてN I Eの活動方針を決める。
- ③クラスのN I E活動の組織作り
- ④総合的な学習の時間や各教科，道徳への活用
- ⑤新聞コンクール参加に向けての活動
- ⑥外国から来た友だちとの交流会
- ⑦授業参観や学級懇談会，アンケートなどによる保護者の参加

2. 実践の内容

(1) 外国から来たお友だちと，友だちの輪を広げよう

外国からクラスへ来た友だちと，どのように関わっていったらよいか，日常生活の中にある問題点をあげながら考えていくことになった。生活習慣が違ふこと，言葉が違ふことによって，いろいろなトラブルがクラスの中にあった。子どもたちは，言葉の通じない日本へ来て苦労していることを感じ，自分たちも何かしていけないといけないと「外国から来たお友だちと，友だちの輪を広げよう」というテーマを決め活動していくことになった。外国から来た友だちメリーサやアキラの家族を呼んで交流会をしようということになった。交流会にはおでんをつくって食べようということになり，学級園に大根を作ることになりました。子どもたちは，大根の種をまき，芽が出てきたら間引いたり，生えてきた草をむしったりと交流会に向けて活動を進めていきました。こうして，学級の中核的な活動が立ち上がりました。



大根の収穫を喜び合う子どもたち

(2) 「外国籍児童の就学支援へ」の記事に出会う子どもたち

学級の中核的な活動が立ち上がったところで、その活動に関係する記事はないか探すことにしました。最初は、教師が新聞記事を子どもたちに紹介することにしました。ある日、産経新聞に外国籍児童の就学支援についての記事が掲載されていました。長野県に在住している外国籍児童の4分の1が就学できていない状況にあり、特にブラジル国籍児童の3分の1が就学できていない状況だということで、支援が必要であるという記事であった。この記事なら、子どもたちにとって身近に感じることができるだろうと考え、子どもたちに紹介しました。

外国籍の児童の教育を受ける権利を守ろうと、県と県経営者協会（安川英昭会長）などの経済団体は、経済的に困窮する子供に就学援助金を支給し、母国語教室に対する助成を行うための、募金活動を8日から開始する。県国際課によると、官民一体となった就学支援活動は全国的にも珍しいという。

小中学校の学齢期にある、県内の外国籍の子供は約二千三百人（平成十三年五月現在）で、四人に一人が未就学。うち、約半数を

県や経営者協会など

外国籍児童の就学支援へ

県内には民間の母国語教室が十校（すべてポルトガル語）あるが、経営状態は厳しい。母国語教室への公的な支援は憲法上認められていないため、月謝は四万

た県と経済団体などは、8月に「外国籍児童就学援助委員会」を設立し、募金活動をスタートさせる。募金は十一月末まで行われ、三ヶ月から、未就学児に対する

全国異例の募金活動8日開始

占めるブラジル人の子供では、約三人に一人が未就学で、彼らの多くは、親の仕事の都合で短期間だけ日本に滞在し、将来的には母国で暮らすため、母国語での教育を望んでいる。

「六万円と高額になり、経済的な事情で、ほとんどの子供が通えないのが現状だ。そこで、一月から「母国語教室研究会」を立ち上げ、支援の検討を始めてい

援助金の支給や、母国語教室の設備・教材に助成を行う予定。県国際課では募金に加え、未就学児に、公立学校や母国語教室への体験入学を促す「教育体験プログラム

「総合的な学習の時間」1時間扱いで、この記事を紹介しました。

授業は、まずこの記事が教師が呼んで聞かせました。

そして、記事をプリントしたものを子ども一人一人に配り、自分でもう一度、じっくりと読む時間をとりました。

次に、この記事について感想文を書かせ、それぞれ思ったことを発表し合いました。

子どもたちは、「学校へ来れないなんてかわいそうだ」「私のうちの近くにも、外国の子どもがいるよ」「豊科町にはどのくらい学校へ来ることができない子どもがいるのだろう」などと、いろいろな疑問や感想が出されたが、だれも、アキラやメリーサと重ね合わせて考えることのできる子どもたちはいなかった。

まだまだ人ごとのように、一つの新聞記事をとらえているのだろうと思われました。

小学校4年生という発達段階において、これが実態であると認識して、この活動をスタートせようと考えました。これからの活動を通して、もう一度この記事のとらえなおしをさせたいと思いました。

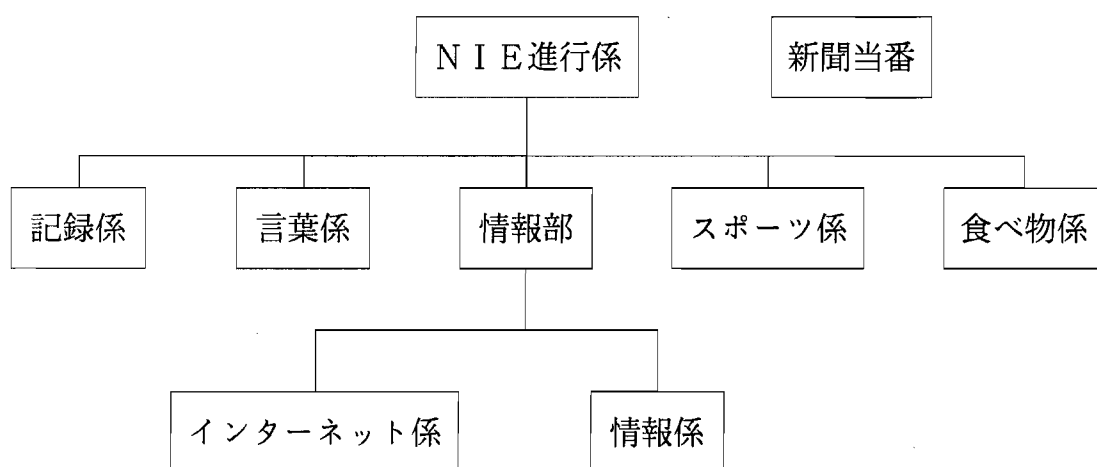
産経新聞の記事

(3) 豊科北小学校 4 年 3 組 N I E 子ども記者クラブ

外国籍児童の就学支援についての記事を紹介すると共に、豊科北小学校の N I E 参加の記事を見せながら、自分たちのクラスが N I E の活動に参加できることを子どもたちに知らせました。そして、自分たちの活動と関係づけて活動を進めていくことになりました。

子どもたちは、自分たちの N I E の活動を「豊科北小学校 4 年 3 組 N I E 子ども記者クラブ」と命名して、組織作りをすることになりました。

【豊科北小学校 4 年 3 組 N I E 子ども記者クラブの組織】



N I E 実践
 県内は 8 校
 新規は 5 校
 日本新聞教育文化財団は十七日、教育に新聞を活用する「N I E」の本年度実践校の二次分、百二校を決めた。五月に決定した一次分と合わせ、四十七都道府県で計三百六十八校になる。二次分の内訳は小学校三十四校、中学校三十二校、高校三十六校。県内では、新規で豊科北小(南安曇郡豊科町)、小川小(上水内郡小川村)、喬木中(下伊那郡喬木村)、長野東高(長野市)、北佐久農産高(佐久市)の五校で、昨年から継続する北小(上田市)、小布施中(上高井郡小布施町)、望月高(北佐久郡望月町)の三校の合わせて八校が実践校となった。実践校には同財団が新聞購読料を補助し、授業などで新聞を活用してもらうほか、新聞記者による講座を開いたり、新聞社の見学などを行う。

このように組織を作り、活動が始まりました。

- ・記録係は自分たちの活動をデジタルカメラで撮影し編集していきます。
- ・言葉係はスペイン語とポルトガル語を調べては、クラスみんなにクイズを出したり、教えたりします。
- ・情報部にはインターネットなどで情報収集したり、発信したりします。
- ・スポーツ係や食べ物(おでんなど)係は、交流会をする中での係になります。

信濃毎日新聞の記事

(4) テーマに沿って記事を集める子どもたち

「豊科北小学校4年3組N I E子ども記者クラブ」の組織の中に情報係があり、そこで、新聞コンクールに向けて記事集めをしています。今のところ、1つのグループが活動しています。テーマは学級の中核的な活動「外国から来たお友だちと、友だちの輪を広げよう」ということで、新聞記事の中から外国籍児童に関する記事を探し、スクラップしています。集めた記事を、まとめて新聞コンクールに出したり、全校に発信できたらいいと考えています。また、保護者の方にも発信していきたいと考えています。



新聞を綴じる子どもたち



新聞記事を切り抜く子どもたち

(5) 外国から来たお友だちを題材にした道徳の授業

『まほうつかいの学校』

【ねらい】

4年になりペルーから来た友達メリーサさんと2学期からブラジルから来たアキラ君は、二人とも日本語があまりできず、誤解が起きたり、けんかが起きたりと、友達関係として乗り越えなくてはならないことがあった。お互いの気持ちを理解し合うことが大切になってきた。言葉が通じないので、本気になって相手の気持ちを察することが必要になってきた。

そこで、資料「魔法使いの学校」（転校生が友だちとドッジボールをやっている時にわざとボールを強く当てられ、からかわれる。そのときの転校生の気持ちを周りの友だちが分かり、行いを変えていくお話）の登場人物の気持ちを考え合うことを通して、

①転校生の孝太君や広志君の気持ちやブラジルから来たアキラ君の気持ちを察することができる心情を育てたい。

②自分がふざけてやっていたことが、相手にとってどういう気持ちにさせるのか考えることができる心情を育てたい。

このように、外国籍児童とのかかわりの中では、お互いに解決しなければならないことがたくさんあると、子どもたちは、感じ始めている。新聞記事としては、いろいろな取り組みが記載されているが、体験の中で、実は大変なことだと感じ始めている。

【授業の流れ】

	教 師 の 発 問	児 童 の 反 応
導 入	T 『まほうつかいの学校』の資料を読む。 T 感想はありませんか。	C ボールをぶつけられて可愛そう。 C 一人でいるのに誘ってやらないのはいけない。 C 「よし」と言って、誘ってあげたのはよかった。 C みんなで思いっきりぶつけるのはだめ。
展 開	T ケン君は、何故、一人でいたのだろうか、どう思いますか。 T 学習カードに書いてみよう T さあどうですか。	C ぶつけられておもしろくなかったから。 C 誰も誘ってくれなかったから。 C みんなからやられればおもしろくないと思う。 C 笑いながらやっていたと書いてあるけど本当はおもしろくなかったんだ。 C 最初は楽しかったよ。 C 下を向いてと書いてあるでしょ。おもしろくなかったんだよ。
終 末	T ケン君は、おもしろくなかったのかなあ。 皆さんは、どう思いますか？ T 最後に二人にメッセージを書いてみよう。	C 最初は楽しかったと思うよ。ケン君もけらけら笑って楽しくよけていたんでしょ。 C 最後の方は、ぶつけられていじめられていると思っている。
	*翌日、時間を取り、メッセージの続きを書いた。 子どもたちは、心の変化に気付き、ケン君を誘って遊んでいる姿に、意識が向いたメッセージだった。差別を許さないとか、守ってあげるといった意見が出ると思ったが、最後ハッピーエンドになった姿を喜ぶ子どもたちであった。	

子どもたちは、メリーサやアキラの心に寄り添いながら、考えたり行動したりすることが大切であることに気付き始めました。新聞記事の向こう側にいる一人一人に心を寄せる読みができるためには、新聞記事の向こう側にいる一人一人は、実はメリーサやアキラであるということに気付くことが大切だと思い、活動を進めることにしました。

(6) メリーサやアキラの家族や友だちと交流会をしよう



ペルーの飲み物「チチャ」を作ると、児童たちは大喜び。メリーサさんは、片仮名書きの手紙とクラス全員分の写真を贈られ、「すごくうれしい」と再会を喜んでいた。

○メリーサさんは昨年五月に同校に入学、八月に転校した。同クラスには日系ブラジル人児童もあり、昨秋からは外国人労働者やその子どもたちの現状を学習。交流会は、メリーサさんが豊科北小を懐かしんでいると聞き、企画した。

○武則さんが、ムラサキトワモロコンにシナモンなどを加えて煮出す

調 原 高



○…南安
郡豊科町の豊
科北小四年三
組は十八日、

交流会に向けて、子どもたちは様々な活動をしてきました。

【情報部（インターネット、情報）の活動】

情報部では、メリーサやアキラの友達を呼ぶといっても、自分たちの地域にどのくらいいるのか分からない、交流会をするにも困るということから、インターネットで調べたり、役場で調べたり、関連記事をさがしたりと情報を集めていきました。調べていく中でなかなか把握できず、最初はメリーサやアキラの家族や友達を招待して交流会をやろうということになりました。

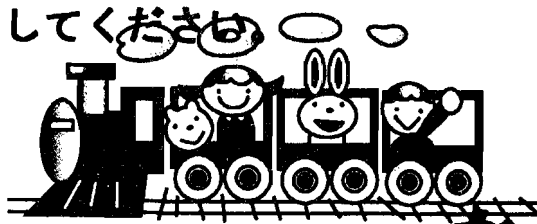
【言葉係】

新聞記事の中には、「正しい情報を伝える場に」ということで、県内3カ所で外国籍親子の日本語教室が開かれる内容があった。子どもたちは、メリーサが三郷村まで言葉の教室へ行っていること、アキラは日本語教室へ行っていないことなどから、外国籍児童が日本語を学ぶ環境は、十分ではないことを感じている。そこで、交流会をやるといっても、言葉の壁を乗り越えなくてはならないことを感じ、この係を立ち上げ、あいさつ程度はできるようにしようと、調べたり、クラスみんなに問題を出したりしながら交流会に向けて活動してきました。当日、進行係は、言葉係の助けを借りて、始めのあいさつの一部分だけスペイン語とポルトガル語であいさつをすることができました。

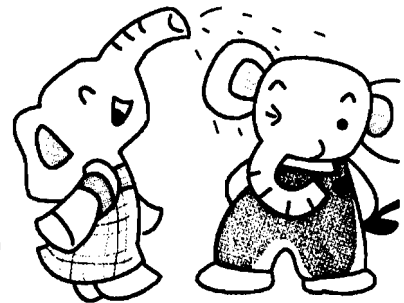
1月18日の交流会では、アキラの家族は仕事で来れませんでした。メリーサのお父さんと、メリーサのブラジルの友達と転校先のクラスの友達が一人参加してくれました。当日はスポーツをやったり、おでんを食べたりと楽しく過ごすことができました。メリーサのお父さんはペルーのデザート「ティチャ」を作ってくれました。子どもたちは喜んで食べていました。その日は、保護者も数人参加してくれました。一つの新聞記事、一つの学級活動から、親子共に活動しながら、子どもたちの意識が高まっていきました。活動を通して、新聞記事の読みが変わって欲しいなと思った瞬間です。

おたのしみかい のアンケート

おたのしみかいのアンケートをとりたいのできょうりよく
してくださーい



かんそう



参加させてもらって ありがとうございました ♪
みんなと一緒に 作って、食べて、おいしかったネ。



とうとうにしかでできたよ。びっくり!! だね。

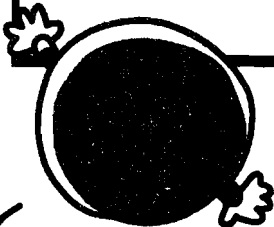


短い時間で、スポーツも調理もできて、
そうえ、メリーサチん達にも 気に入って...

さあがは 4年生。

メリーサチん達も うれしかったと思うヨ。

1 ねも とても楽しかったよ。 ありがとう ♪



(7) 今までの活動を振り返って

今までの活動を振り返りながら、もう一度「外国籍児童の就学支援へ」の記事を読み直してみることにしました。そして、親子で感想を書いてももらいました。

感想は、①活動する前とした後の考え方の違いを書こう②お家の人の感想、の2つの内容でした。子どもの感想には、「最初はなんとなく活動していたけど、メリーサの笑い声、笑った顔を見て本当にうれしかったです。」「外国の人たちが、私たちの知らないところで、一生懸命やっているなんて知らなかった」などと、心の変容が見られました。親も、子どもたちと共に活動をし、子どもたちの変容に心を寄せながら、一緒に考えている姿がありました。自分たちの活動を通して、新聞記事を読み直すことで、理解も深まり、自分の心の変容も自覚することができると思いました。小学校中学年の発達段階において、記事の内容を追体験してみることは、読みを深めるのに有効であると思いました。

【感想】

名前 ()

* 活動する前とした後の考えかたの違いを書こう

最初はただなんとなく活動していたけどこの前おでん会をしてメリーサの笑い声や笑った顔を見て本当にうれしかった。今後の活動はアキラのお姉さんのアサキとアリーネさん、メリーサのお母さんも来て楽しくやりたいと思いました。

【お家の人の感想】

子供達は、どの子も平等に教育を受ける権利があります。親のつ忽のためにその権利をほうきずるのは悲しいことです。ほ金活動によりしえんすることがでまるのであれは参加したいと思ひます。しう来のある大い子供達のためにせきよく自アに日本の文化や言葉に引れてほしいと思ひます。日本語習得がアキラは障害となっている言葉のかアをとりぬそくいいきかいだと思ひます子供達には、たくさんのかいけんを通じ大きな夢とかを身につけていつてほしいであ。一母一

3. 成果と課題

小学校4年生という発達段階の子どもたちにとっても、体験を通すことで、新聞記事を自分に引き寄せてくることができれば、記事を読むエネルギーは大きくなります。

新聞記事の向こう側にいる人の気持ちに寄り添うことができれば、子どもたちでも主体的な読みができると思います。新聞記事から様々な情報を得ることも大切ですが、新聞記事をどのように読むかということも、大切な学習であると感じました。一つの記事でいいので子どもたちが、その記事にかかわることで、4年生でも社会事象に対する見方や考え方を深めていくことができると思いました。

これからの課題・願いとしては、新聞記事の向こう側にいる人の気持ちに寄り添ったりその記事を書いた人の気持ちにも触れたりしながら、さらに、主体的な読みをして欲しいと願っています。

また、新聞記事を書いた人や、記事の向こう側にいる人へ、自分たちの考えを発信できる子どもたちに育って欲しいと考えています。

子どもたちにとって、新聞記事が、自分と外の世界をつなぐ扉になるように、さらに活動を進めていきたいと思っています。

教育に新聞を

「メリーサちゃん、最近のあなたの立場に立つ記事を読もう。昨年、長野県新聞の長野市小笠原組の児童は、クラスで外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。」

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

異文化に触れ成長

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

外国籍児童との交流深まる

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

長野市小笠原組の児童は、外国児童を招いて、色んなことを学び、外国児童の生活を知りながら、新聞を読み進め、自分の考えを述べた。

4年3組 みさお先生と皆さん。
色々こしもありがとうございました。

バスケットボールとドッチボールは
楽しかった。

おでんとデザート・フッキー・チョコ
バナナ本当においしかった。

みんなさんでつくってあげたのは
本当にうれしかったです。

心から楽しんでます、今日の
3時間目はとてもうれしかったです。

私も~~みんな~~もわすれなかったの
とてもうれしいです。

私の友達も仲良しと
いっしょにたくさん本当に
ありがとうございました
以枝田 11月15日 十五年1月18日

メリーサからの手紙

中日新聞の記事